

科目番号	51013	分類		履修者	高度実践看護コース	学年
科目名	コンサルテーション・インフォームドコンセント特論 (Advanced consultation/Informed Consent)					1
						配当シスター
						後期
担当者	○忠 雅之 他3名	区分	必修	単位	1	時間数
						カリキュラム 15
						特定行為研修（実時間） 研修対応時間 6.0
授業の概要および目標				学位授与の方針と関連		
【概 要】 医療におけるインフォームドコンセントのもつ意味を理解し、診察で得られた所見、画像診断やデータ分析に基づく診断内容について、患者の状況に対応して説明できるようにする。また看護におけるコンサルテーションは、インフォームドコンセントの技術を用いた包括的な援助であることを理解し、患者が納得するプロセスをたどれるよう具体的な実践方法を学ぶ。 【目 標】 1. 医療におけるインフォームドコンセントの意義を理解する。 2. クリティカル領域における患者の状況に対応したインフォームドコンセントの技術を理解する。 3. インフォームドコンセントにおける高度実践看護師の役割を明確にする。 4. コンサルテーションの基本理論とインフォームドコンセントとの関連を理解する。					1	クリティカル領域における患者の状況を総合的に判断する能力
					2	クリティカル領域における患者に必要な治療を実践できる能力
				○	3	患者に安心・安全な医療をタイムリーかつ効果的に提供するために医師等との協働ができ、ネットワークを推進できる能力
				○	4	専門職としての倫理的意思決定能力
				○	5	高度看護実践者として、教育的経営的な視点をもつトップマネジメント能力
					6	臨床実践に潜む暗黙知を形式知へと創出する研究開発能力
					7	クリティカル領域における患者の危機的状況を支援する能力
授業計画						
回	内容					担当教員
	< 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 >					忠 他3名
第1回	ガイダンス 1. コンサルテーション、インフォームドコンセントの概念					
第2回	2. インフォームドコンセントの現状と課題 1) インフォームドコンセントの理論とクリティカル領域におけるインフォームドコンセントの現状と課題					
第3回						
第4回	2) 外来におけるインフォームドコンセントの現状と課題					
第5回	3) 小児臨床におけるインフォームドコンセントの現状と課題					
第6回	4) 終末期医療におけるインフォームドコンセントの現状と課題					
第7回	3. クリティカル領域における、患者の状況に応じたインフォームドコンセントの実際診療場面の説明方法と説明内容					
第8回						
事前・事後学習	事前学習：学習内容に関係する時事問題について、新聞やインターネットで調べておく 事後学習：配布資料や学習内容を振り返り、仕事への活用について検討する 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。					
評価の方法	参加度(10%)、資料およびプレゼンテーション（40%）、筆記試験、課題レポート及び観察評価（50%）から総合的に評価する。 フィードバックは適宜行う。					
参考図書・資料等	適宜紹介する。 ◎は授業の必携図書ですので、購入していただきます。					
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。					